

素材生産業者の活動・先行き動向調査(25年6月分)

1. 調査実施期間 平成25年 5月20日 ～25年6月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
6月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		25/6月	7月	8月
伐採動向	スギ	-14.3	14.3	14.3
	ヒノキ	-37.5	12.5	-12.5
	カラマツ	16.7	0.0	0.0
	エゾ・トド	75.0	25.0	25.0
出荷・販売動向	スギ	-21.4	-7.1	14.3
	ヒノキ	-37.5	-12.5	0.0
	カラマツ	16.7	0.0	0.0
	エゾ・トド	50.0	50.0	△ 50.0
手持立木 在庫動向	スギ	8.3	8.3	8.3
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	12.5	0.0	0.0
	エゾ・トド	△ 50.0	0.0	25.0

伐採はスギは6月のマイナスから7、8月に向けプラスに、ヒノキは6月のマイナスから7月のゼロを経て8月は再びマイナスへ、カラマツは6月のプラスから7、8月はゼロに、エゾ・トドは大きなプラスから7、8月に向けプラス幅縮小。
出荷・販売は、スギ、ヒノキは6、7月のマイナスから8月に向けてプラスあるいはゼロ、カラマツは6月のプラスから7、8月はゼロへ、エゾ・トドは6、7月の大きなプラスから8月は大きなマイナスに。
手持立木在庫は、スギはプラス基調推移、ヒノキは横ばい、カラマツは6月のプラスから7、8月は横ばい、エゾ・トドは大きなマイナスから8月にはプラスに。

モニターからのコメント

(伐採動向)

・トドマツ、カラマツとも間伐のみ。・現在トドマツ間伐材のみ伐採。需要があり増加している。7月からは国有林請負事業開始により伐採量減少。・スギ、カラマツ主伐・間伐とも梅雨時期に入り伐採は控え目。

・スギ、ヒノキとも間伐を実施。

・スギ、ヒノキ主体でカラマツはほとんどない。

・スギ、ヒノキとも主伐ほとんどなく、国有林は秋以降に、間伐は民有林は時期的にごくわずか、

(出材・販売動向)

・道有林からの出材が7月から増加。国有林の生産請負が7月からスタート。

・梅雨期に入り虫害も発生しはじめ、出材、販売調整をしている。価格はスギ、カラマツともに弱含み。

・スギ、ヒノキとも出材調整はしていない。

・スギ、ヒノキとも補助金がらみの間伐が主体となっている。

・スギ、ヒノキ民有林材減少、国有林は増加。

(手持ち立木在庫)

・国有林請負開始前は手持ち立木で出材、販売。請負開始後は在庫減少。6、7月立木公売でトド落札買い受け予定で増加の見込み。

・スギ、カラマツ立木手当は消極的。

・スギ、ヒノキとも手持ち立木在庫はない。